



中高6学年の最上級生としての一年間が始まりました。教室もホール棟に移り、窓からは桜が見え、広く、清々しい環境になりました。年度初めに心新たに、高校生活最後の一年間の過ごし方、決意を固めてください。

これから皆さんは大学合格に向けて全力で取り組むことと思いますが、受験当日最大の力を発揮して合格を勝ち取るのは、これから入試までの300日、7200時間の過ごし方입니다。全国の他の受験生よりも多く努力をした人が、よりここから実力が伸びますから、寸暇を惜しんで机に向かうことです。スケジュールをたて、時間を計りながら問題を解く、などやり方も大切ですが、とにかく今日一日、今の一時間に集中して全力で取り組む。この積み重ねしかありません。強い精神力と、何か何でも合格するという強い意志で、受験に立ち向かってください。

(宝田)

学年団紹介

	3年1組	3年2組	3年3組	3年4組	3年5組	3年6組	3年7組
生徒数	40名	40名	43名	40名	40名	40名	41名
担任	堀端慎一	石井沖親	古宇田大介	佐藤栄一	坂倉弘子	廣嶋伸道	大村俊樹
副担任	早川千春	荒牧孝一郎	宝田敏博	菅又雄太郎	安田勅男	門田優香	門田優香

入試方式～推薦から一般入試まで

いよいよ入試を迎える一年になりました。ここまでも、入試方式や推薦などについて、情報提供はしてきたつもりでしたが、もういちど、ここでおさらいしておきたいと思います。なお、詳細については、7月の保護者会を経て、最終的には9月以降からさまざまな動きをすることになりますので、ご承知おきください。

指定校推薦

本校の卒業生の実績をもとに各大学から各高校に割り振られるものです。ですから、各大学からの通知によって決まりますので、現在有力大学からの通知はなく、7月頃に送られてきますので、生徒に通知できるのは9月以降になります。

また、推薦のあるなしは各大学が決めることですので、たとえば、早稲田大学の場合、文学部では行っていますが、教育学部では一切行っていません。つまり、教育学部希望者はいくら待っても来る可能性はないということです。

これらの指定校推薦は、大学から決められた基準を越えている希望生徒の中で、決められた枠の人数に合わせて推薦します。たいていの場合、1名ですので、いくら基準を越えても、優秀な生徒の中で1名を選ばなければなりませんので、絶対に指定校推薦を当てにすることはしないでください。

また、この指定校推薦の生徒には具体的な約束がいくつもあります。たとえば、本校の推薦を得た後、入学しなかった場合、入学後成績不振の場合、入学後転部などをした場合、次年度の推薦がなくなることが明記されている大学がほとんどです。したがって、本校としても、代表としての自覚とともに、いくつもの誓約をいただかなければいけませんので、進路意識の不確定の生徒は推薦できません。

芝浦内部推薦

基本的に、指定校推薦に準じるものとお思ってください。ただ枠については付属校ですので、例年希望者に見合う数があります。基準については、1年次より、以下の通り、お示ししてまいりました。

芝浦工業大学の推薦については、学力、生活、意欲などの面を総合して、選抜することになります。大学、併設高と連携して、推薦方法の見直しなどを進めておりますので、現時点では参考として、過年度のものを示すにとどめておきます。実際の選抜は、生活に問題がない限り、学力をもとに選抜します。学力自体は、「**3カ年の全ての成績**」および「**3年次に実施される受験科目による選抜試験**」の二つによって測られています。なお、クラブ活動や生徒会活動などによって、合格する、有利になることはありません。

芝浦工業大学推薦入学候補者の選考（参考）

選考基準

生活・学業・人物のあらゆる点で本校生徒としてふさわしい者

・次の条件を満たさない者は推薦されない。

I 理系を選択している者。

（ただし、履修した科目により、進学できる学科に制限がある。）

II 全教科の3カ年の評定平均が100段階で50以上の者。

III 3年次12月の時点で欠点がない者。

IV 学校から特別指導を2回以上受けたことのない者。

V 3年次12月の時点で欠時1/10超過が1科目もない者。

・次の条件を満たさない者は推薦されないことがある。推薦される場合には、その基準を大きく下回ってはならない。

VI 各学年末において、特に理由なき欠席・遅刻・早退の合計が10回を超えない者。

VII 数学・理科・英語、3カ年の評定平均の3教科平均が100段階で60以上の者。

以上をお伝えしてまいりましたが、以下のことについてお知らせします。

・基準について

上記の基準は、希望者が枠を上回った場合まず優先的に基準を越えているものから、合格していきます。しかしながら、現在は枠を下回ることが多いため、基準を越えていない生徒も推薦されるケースもあるのが実状です。ただし、以下の生徒については推薦されません。

① 卒業に関わる基準

推薦試験判定時に、卒業判定がでない生徒は推薦されません。具体的には欠点、欠時オーバーなどです。

② 大学での学習についていけない学力の生徒、学業の基準

上記の基準の中でも、特に学力に関わる基準は、あまり揺らぎません。卒業試験が推薦試験を兼ねますので、卒業試験が優秀であれば、IIの基準が割合厳しめであるためにこれを下回っても推薦したケースはありますが、だからといって「基準を下回ってよい」ということではありません。特に近年は、中途退学者なども散見されるため、この基準を厳しく適用せざるを得なくなっています。逆に推薦試験で一定の基準を越えないと、上記の基準を越えていても推薦できません。また、IIIの基準はかなり低い基準ですので、どんなに推薦枠を希望者が下回ってもこの基準を満たさない生徒が推薦されることはありません。

③ 大学に進学後、生活面で適応できないと思われる生徒

VIIの特別指導2回などを含め、本校として自信を持って送ることができない生徒は当然推薦できません。

・流れについて

基本的には後期以降に、保護者説明会、出願などが行われていきます。この詳細については、別途文書でお知らせします。ただし、芝浦推薦の資格については、選択科目などで出願できる学科に制限がありますので、すでに決まっている部分があります。

・推薦にふさわしい学力について

推薦で入学するからといって、大学での学習についていけないようでは困ります。したがって、卒業試験＝推薦試験において、一定の成績をとることが求められることになります。どんなに推薦基準を越えていたとしても、この**推薦試験で、低迷した場合、推薦できない**ことになります。目安としては、**英数理の定期試験で60点程度**を目標にしてください。低得点の場合には、基準を越えていても不合格になります。学校としては、後期以降の推薦希望者に対して、特に数学、英語など推薦希望者に推薦試験、および、内定通知後に、一定の指導をしていくことになります。こうした指導についても、文書などでお知らせすることになりますが、こうした指導を放棄した場合、不合格となったり、内定が取り消されたりすることがあります。

・二次推薦について

この制度はもともと、国公立志望者など優秀層が本意な結果に終わった時に、もう一度芝浦工大に目を向けるチャンスを与えるものであり、芝浦工大に進学する学力のない者を合格させる制度ではありません。したがって、I期推薦で、合否の当落線上にいるような生徒は、II期推薦では推薦されないケースがほとんどです。慎重に判断の上、I期推薦へ出願するかどうかを検討してください。

公募推薦・AO入試

公募推薦は、学校長が推薦した生徒から選抜をする試験です。したがって、指定校推薦とは大きく異なり、出願したからと言って合格が保証されるわけではありません。中には、「そうはいつでも受かりやすい」という考えをお持ちの方がいらっしゃいますが、確かに倍率は、一般より低いものの、出願した生徒は全て一定の評定基準（多くは4.3）を越え、学校長の推薦を得た生徒ですので、名門大学であればあるほど激戦になります。ちなみに今春の卒業生で国公立の公募入試を突破したものは1名のみです。

AO入試については、必ずしも学校長の推薦を必要としないものですので、多くの生徒が出願しますので、合格がとりやすいかどうかはなんとも言えません。逆に、生徒が出願し、第一志望に限らない入試では、むしろ一般入試と比べて、受験すべきものもあります。

特徴は、いわゆる受験学力とは違う視点ではかる、ということにありますので、一般入試では厳しい生徒が合格する可能性があります。しかし、逆を言うなら、受験勉強の他に、余計な準備が必要になる、ということでもあります。

また、いくら実績型の入試であったとしても、全国大会の出場者やコンクールの入賞者が、書類で不合格になったり、2次で不合格になったりすることは珍しいことではありませんので、「合格しやすい」「実績があるから入れる」と考えることは大きな誤りです。準備には相当の時間がかかり、その準備を怠ると不合格になり、また準備をしても、受かるわけではないことを肝に銘じてください。

センター利用入試

センター試験は国公立大学の1次試験と用いられるのですが、近年では多くの私立大学でセンター試験を利用して合格を決める枠を作っています。その試験の定員や科目については、各大学、各学部が決めていますので、同じ大学でも、学部によって実施していなかったり、試験科目が異なっていたりします。また、一般入試が3科目であっても、センター利用では7科目であるようなケースもあります。一般的には、センター利用の方が、一般入試より合格はとりにくいケースが多いようです。

なお、科目数が多い方が合格ラインが低いケースがほとんどです。私立にしぼったとしても、マーク模試などで、文系であれば数学I Aや理科基礎、現代社会など、理系であれば、国語、地理、現社など負担が少なく、点数のとりやすい科目を受けておくと、センター利用をどちらでいくべきかの目安になるでしょう。

全学部入試

いわゆる一般入試もいくつかの大学では、個別入試（従前の入試）と全学部入試の二つに定員を分けています。全学部入試とは、その大学の全学部を同一試験で同一日に実施するものです。大学によって、いくつもの学部と同時に出願できる大学と、ひとつの学部にしかな実施できない大学に別れます。どちらかという、個別入試の方が合格をとりやすいケースが多いようですが、データを見る限り、どちらとも言い切れない大学が多いようです。

国公立入試

前期入試と後期入試がありますが、近年では後期入試が廃止される方向にあります。昨年は東工大が後期を廃止しました。センター試験を受験後、自己採点をし、その結果をもとに、前期、後期をまとめて出願します。また、後期を受験するためには、前期の大学に手続きをしないことが条件です。つまり、前期で滑り止めを作り、後期チャレンジすることはできません。その結果、近年では後期まで受験をせずにほどほどの私立に進学する生徒が増えており、後期ではびっくりするような逆転が起きます。したがって、国公立を希望するなら、強気の出願をすることとともに、最後まであきらめないことが重要です。

1年の流れ～模試・夏期講習

すでに2年次に生徒向けの学習の流れについては、お知らせしておりますので、ご参照ください。なお、7月に保護者会、10月に保護者会、保護者面談（希望者）を経て、12月の受験動向説明会を生徒にフィードバックし、併願作戦が決まることとなります。その流れについては適宜、保護者会で説明することとし、ここでは模試と夏期講習について、簡単にお知らせします。

模擬試験

模擬試験のおおよその流れは「3年0学期予定表（生徒には1月に配布済み）」で示しています。模擬試験の利用についてはこれまでの学年通信でも示してきましたので、3年次についての注意事項をお知らせします。

① 試験科目の増加

試験科目の増加に伴い、今までは希望者模試については、本校で実施し、料金の面でも、心理面でも受けやすくしてきました。しかし、試験科目が増加することにより、1日で実施すると早朝から夜までかかるため、本校での実施がほとんどできません。ポジティブに考えれば、入試を見据えては、「心理的に受けやすく」というのも逆効果であるようになってくるのが、3年生ですので、会場実施になっても、しっかりと受験してほしいと考えています。売店申し込み、資料を本校から生徒に届けることにより、割引で受験することは可能です。

② 大学別模試

3年生になると、大学別模試が行われるようになります。夏、秋頃に実施されることが多いので、志望大学の模試が行われる場合には受験しておいた方がよいでしょう。夏、秋に実施されるということは、それまでに準備をしていなければいけないということです。また、早稲田や慶応などでは、学部によって出題傾向が異なります。したがって、完全なプレ模試はありませんので、プレ模試で傾向をつかむというようなことは決してしないでください。

③ どの模試を受けるか

どの模試を受けるかは、志望によります。センター試験を受けるなら、マーク模試、私大や国立なら記述模試、東大や東工大などの難関大は大学別模試などを受験します。人によってウエイトが違いますので、自分で判断するしかありません。マークと記述を同じ模試でそろえるとドッキング判定され、国立の様子がわかります。ポイントは、個別や二次は記述、センター利用はマーク、ということで、両方受けるなら、両方受けておくしかありません。特に、学校で全員受験の記述模試しか受けていないと、二次・私大に合わせた選択科目になりますので、センターのみで使う科目の実力をチェックしないまま、夏休みに入るような事態になりますので、どうしても希望者のマーク模試が受けられない場合は、記述模試であってもセンター科目を受けておくような工夫が必要です。

夏期講習

例年通り夏期講習を行います。3年生になったことに伴い、科目数やレベル別など講座数が多くなります。比較的安価に行われますので、是非、しっかりと受講してください。ただし、こうした夏期講習期間には、予備校の空気を吸うことも重要です。日頃から予備校に通う必要はありませんが（通っていけないわけではありません）、夏期講習期間ぐらいは、予備校で刺激を受けることも重要ですので、適宜利用するのがよいでしょう。

学校、予備校でも同じですが、夏期講習をとりすぎるのには注意してください。夏が受験の天王山といわれますが、講義を聴いている間は、逆に言えば、自分で問題を解いているわけではないのです。午前中に2コマ、午後に1コマなどという受講をした場合、結局、夜以外は自分で問題を解いている時間がないのです。夏期講習を申し込むときは6月ですから、まだ細かいことがイメージできません。「クラブを引退したらすごく勉強ができる」というイメージで計画を練っていますから、こうしたことが夏を終わってみると「予定通りにいかなかった」という一因になるのです。夏期講習は、予習、復習が必要ですし、自分の予定を進めることが受験勉強の最も大切なことなので、注意してほしいと思います。

今後の予定

4月20日（木） 歯科検診
5月 1日（月）・2日（火） 球技大会
12日（金） 内科検診
19日（金） 合唱祭
30日（火） 31日（水） 中間試験
6月 1日（木） 2日（金） 中間試験



欠席・遅刻の連絡

学年の直通電話は 04-7174-4097で今までと変わりません。

8時10分から30分の間に連絡をお願いします。

夢実現のための十則

- 夢を持て。ない夢はかなわぬ。目標なく一生懸命やることに酔うな。
- やることを与えられるな。自分のために創り出し、形にして期限を決めよ。
- 他人と関われ。他人を理解しようとしろ。他人に理解される努力をしろ。
- 挨拶をせよ。人に気付き、人に気付いてもらえる。
- 毎日他人に奉仕しろ。心がきれいなら他人も応援してくれる。
- 話を聞く姿勢を作れ。聞く人には教えたくなる。助けたくなる。
- 書け。何度でも書き直せ。書かないことは考えていないこと。
- 自分と戦え。自分は見ている。人と戦うな。気にするな。自分が変われ。
- 大事なことは最初にやれ。優先順位を考えろ。タイミングを逃すな。
- 成功を繰返し、失敗を繰返さぬよう分析しろ。原因を五回さかのぼれ。

スケジュール	月	学習の流れ・イメージ	模試
始業式 実力テスト 面談週間	4	現状を踏まえて、志望校の再設定をし、出題傾向や問題レベルを確認。SS でさらに弱点克服できたかどうかの確認と完成。二次科目だけでなく、センター科目も含めて、バランスよく学習をすすめる。二次科目であるかどうかに関わらず、夏休み前に苦手を克服し、基本の完成、センターの問題演習などに入らないと秋の学習に支障が出ていく。(夏休み前に5教科センターレベルの完成を目指す。80%目標)	30 日河合マーク
球技大会 合唱祭	5		7 日駿台全国模試 15 日河合記述模試【全員学校】 28 日駿台全国模試
中間試験 4 日 英検第 1 回 (1 次)	6		25 日進研センター模試
面談週間 芝浦工大学科説明会 夏期講習 2・9 日 英検第 1 回 (2 次) 23 日 TEAP 第 1 回	7	夏期講習などの受講により、思っているより時間はとれない。この時期は、基本の完成を前提にし、問題演習→基本の復習のサイクルに入っている。この時期に基本がはいっていない場合、やり直すしかないが、ここで問題演習にとりかかれぬものは、入試には間に合わない。夏休み中に 5 教科のセンターレベルの完成を目指す。大学の出題傾向に合わせて学習をすすめていく。	23 日駿台マーク 30 日河合マーク
夏期講習	8		5, 6 日河合東大オープン 12, 13 日駿台東大実戦 29 日河合記述模試【全員学校】
期末試験 センター試験出願	9	理社、数Ⅲなど、この時期でも新しい学習範囲が授業でも与えられていく。つまり、新しい学習範囲の定着と、復習、問題演習などの全てをこの時期に取り組む。この時期に私大、二次の対策にまで入らないと、時間的に間に合わないが、新出の範囲が出てくる上に、演習を重ねるので、時間が足りなくなる。この時期の模試で出願を決めざるを得ない。	3 日駿台全国判定模試 17 日駿台・ベネッセマーク 26 日駿台全国模試
1 日 TEAP 第 2 回 大学別入試説明会 芝浦工大学科見学 8 日 英検第 2 回 (1 次)	10		15 日駿台・ベネッセマーク 各大学別模試 20 日河合記述模試【全員学校】 21 日一橋・東工・北大・東北等実践 22 日河合マーク 29 日一橋・東工大オープン
大学別入試説明会 面談週間 (志望大学最終決定) 12 日 英検第 2 回 (2 次) 20 日 TEAP 第 3 回	11	志望大学、受験大学に向け、各志望大学で必要とされる重点分野をしっかり習得し、応用力を付ける。過去問で記述解答の作成能力を高める。12 月の卒業試験以降、いったんセンター対策に戻る。そのあと 2 月 1 日の私大入試まで 2 週間であることを考えると、11 月いっぱい、私大対策はいったん終わるイメージ。	3 日京大 4, 5 日東大オープン 5 日駿台・ベネッセマーク 11, 12 日東大実践模試 23 日河合早慶オープン 26 日河合塾センタープレ
3 日 TEAP 第 3 回 卒業試験	12		3 日駿台全国模試 14, 15 日駿台センタープレ
～12 日 センター利用私大出願 13, 14 日 センター試験 15 日 センターリサーチ	1	入試のその日まで、つめられるものはつめこむ。センター後も、私大、二次までは 30 日があり、入試→復習のサイクルで劇的に成績を伸ばす生徒もいる。気持ちの問題の前に、学習を続けること。	10, 11 日センターファイナル
私立大学受験・合格発表 国公立大学受験	2	国立難関受験者はできるだけ、センター利用 (90%) である程度の合格を確保し、二次対策の時間をとる。学校に登校しつつ、受験を通じて学力をあげていく。最後まで、つめるべきものをつめていく。	
卒業式 国公立大学前期合格発表 国公立中期・後期試験	3		